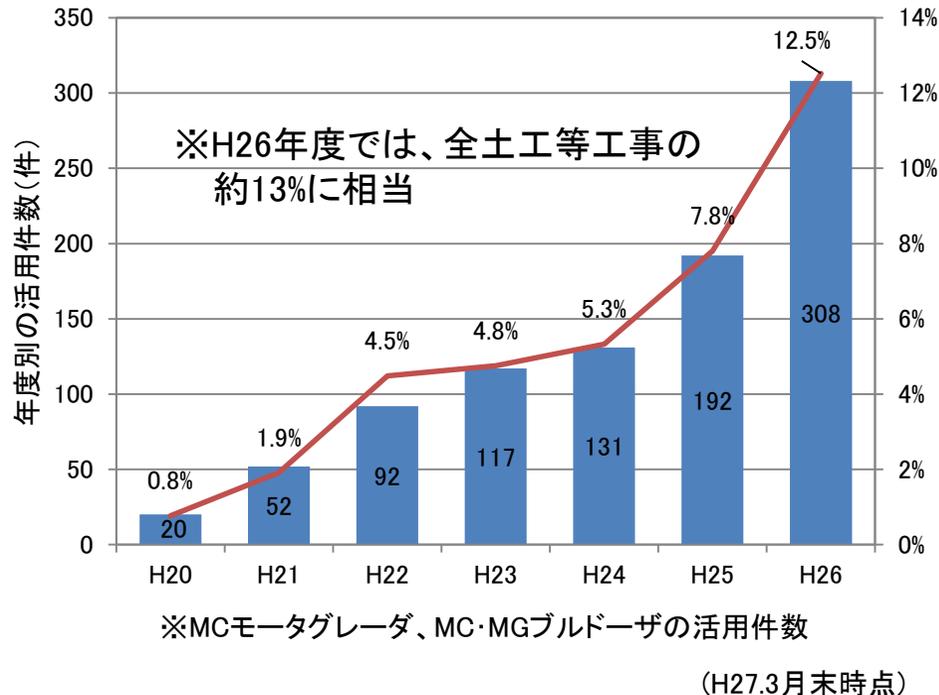


- 国土交通省では、平成20年度より直轄工事における情報化施工の試行を開始。
- 平成26年度では、規模の大小を問わず全土工等工事の約13%に相当。
- 従来施工に比べ、施工量(日当たり)は約1.5倍(路盤工)に向上し、重機オペレータ以外の技能労働者は約1/3に減少。

1. 実施件数 (H20~H26で延べ912件)



2. 施工の効率化・省力化

- ・重機1台あたりの日当たり施工量(路盤工)
1,110 (m²) → 約1,650 (m²) (約1.5倍)
(従来施工の標準積算)
- ・重機周りの補助作業や丁張り設置作業は不要
オペレータ以外の技能労働者は約1/3

(参考) 試行状況



情報化施工

建設機械に3次元設計データをinputし、衛星により建設機械の位置を計測することによって、高効率、高精度に自動制御を行う土工工事